

2008年3月14日（金）

東京都教育委員会

木村 孟 教育委員長様  
内館 牧子 教育委員様  
高坂 節三 教育委員様  
竹花 豊 教育委員様  
瀬古 利彦 教育委員様  
中村 正彦 教育長様

〒186-0004 東京都国立市北1-1-6 コーポ翠 多摩教組気付  
河原井さん根津さんらの「君が代」解雇をさせない会

### 請 願 書

「東京都教育委員会請願取扱要綱」は、「教育委員会決定に該当する請願」については「請願があった旨を教育委員会定例会に報告し（要綱第四）、「主管課は、その結果を請願者に通知するものとする」としてあります（要綱第三の一）。

先日3月10日に教育情報課に要請書を提出しましたが、上記の要綱があることを確認しましたので、改めて、請願書を提出させていただきます。

根津さんと河原井さんの懲戒・分限は、教育委員会に決定権限があり、私たちの「河原井さん根津さんらの「君が代」解雇をするな」の請願は、「教育委員会決定に該当する請願」となるはずですが、

以下に請願の趣旨を書き <sup>したた</sup> ;認めます。

### 請願の趣旨

- 1、根津公子さん（南大沢学園養護学校在職）を“君が代不起立”による解雇処分にしないこと。
- 2、河原井純子さん（八王子東養護学校在職）を“君が代不起立”による停職処分にしないこと。

2007年度卒業式の季節がやってまいりました。歴史に学び、日々の教育活動を民主的に行なおうとしている教職員にとっては、苦しく、心痛い卒業式の季節です。

そして、河原井さんや、根津さんにとっては、「解雇」を覚悟しながら臨む卒業式でもあります。

30余年を東京都の教員として、精一杯勤めてきた教育活動に別れを告げなければならない、生徒に伝えたい思いをあきらめなければならない、さびしい覚悟を迫られている二人の胸のうちを、教育委員のみなさん方にはご想像がつくでしょうか。

私たち、「君が代」解雇をさせない会の会員は皆、根津さんにも、河原井さんにも、こんな時代だからこそ、教育現場に残って欲しいと心から願っています。その気持ちから上記のことを請願します。

二人とも、「“君が代”斉唱時に壇上に向けて起立をし、歌うこと」とする2003年に出された10・23通達に沿った、校長の職務命令に違反したとして地公法32条違反に問われています。

10・23通達は、「教育公務員の内心の自由」が、外部的行為になって現れたときには処分してもいい

という、非道なものです。教育の現場に立つということは、日々、内心からの吐露をし続けなければ生徒の心をつかむことはできません。だからこそ、教員は、自分の中に蓄えた思想・信条により授業を作っていくのです。マニュアル化したもので、授業は成立するものではありません。10・23通達は現場を知らない人の作った非道なものと言わざるを得ません。

その上、毎年行なわれる卒業式・入学式で不起立を繰り返したとして、累積加重処分が出され、根津さんは、この3月末に“クビにされる”かもしれない事態になっています。

こんな事態は東京都だけです。しかも、「命がけで憲法を破る」と公言してはばからない石原都知事誕生以後に起こっている事態です。

処分を出してまで教員に“起立せよ”と迫る都教委の方針は、教育の場への“日の丸・君が代”の強制・押し付けだとして、二人は“不起立”を貫いています。

実際、高校生が不起立をすれば、「厳正な卒業式が乱された」として、担任の教員が嚴重注意を受け、小学生が不起立をすれば、生活指導部の教員が親を呼び出し注意をするということも起きています。

これは、都教委が2006年3月13日に出した通達「学習指導要領に基づき適正に生徒を指導すること」によって、「日の丸・君が代」を生徒に強制することを教職員に命じた結果、起こっていることです。

“君が代”を歌いたい人もいれば、歌いたくない人もいるのです。学校（教育の場）というのは、それを保障していく場所であるべきではないでしょうか。強制することで教育の自由は壊されていきます。民主的な話し合いの場はなくなり、民主的な話し合いを育成すべき学校は上からの命令に従う場所になっていきます。実際、学校現場は“ものを言えない”“命令に従う”場所になりつつあります。これを私たちは許すわけにはいきません。

東京都教育委員の皆さんは、「職務命令に従わないから解雇するのであって、戦争だの平和だのは関係のない話だ」と言われるかもしれませんが、「君が代」斉唱時には起立せよという職務命令に反したら処分、繰り返したら解雇というのは、教職員に命令への絶対服従を求めるということです。軍命と言うに等しいものです。教育を通じて、上からの命令に従順な人間を育て上げようとしていることを意味しています。そんな教育の行き着く先が侵略戦争であったことを、過去の歴史はあますところなく教えてくれています。

根津さん、河原井さんに新たな処分を出さないでください。署名にあらわれた3万人近くの沢山の人の思いと、未来を信じる子ども達の希望をつぶさない意味からも絶対に処分をしないで下さい

以上